

講義コード	1114310002
講義名称	東洋史 02<秋集>
科目英文名	Oriental History
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	HIST1440
単位数	4.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限, 秋学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
辻 高広

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)

講義・演習概要	東アジアの国々は、時代によってその密度に濃淡はあるものの、中国を中心とした一定の関わりをもって、ひとつの「東アジア世界」を形成してきた。本講義では、中国歴代王朝の変遷を縦軸にしながら、周辺地域との文化的・経済的・政治的交流を中心に東アジア世界の歴史的展開を概括する。
学習（到達）目標	東アジア世界を形成してきた有機的なつながりについて学びながら、歴史が断絶のなかに形成されてきたのではなく、連続性をもって現代につながっていることを理解する。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	先秦時代1―「中華」世界の萌芽
第3回	先秦時代2―今に残る「古代中国」
第4回	秦漢時代1―統一帝国の形成と内実
第5回	秦漢時代2―徐福と渡来伝説
第6回	三国時代1―後漢の滅亡と三国鼎立
第7回	三国時代2―邪馬台国と東アジア国際情勢
第8回	南北朝時代1―晋による統一と異民族国家の乱立
第9回	南北朝時代2―南北朝の対立と古代日朝関係
第10回	隋唐時代1―隋唐世界帝国
第11回	隋唐時代2―世界帝国唐の繁栄と衰退
第12回	隋唐時代3―遣唐使の時代
第13回	五代十国―唐末の混乱と軍閥割拠
第14回	宋代1―文人国家宋
第15回	宋代2―ゆらぐ「中華」
第16回	宋代3―商業の発達と海を渡る貨幣
第17回	元代1―遊牧民族国家としてのモンゴル
第18回	元代2―国際商業国家としてのモンゴル

第19回	明代1―征服王朝の崩壊と漢民族王朝の復活
第20回	明代2―永楽帝の対外政策と朝貢貿易体制の成立
第21回	明代3―北虜南倭と銀の時代
第22回	清代1―「中華」王朝の完成
第23回	清代2―清とモンゴル・チベット・ウイグル
第24回	清代3―清とヨーロッパ
第25回	中華民国時代1―革命から近代国家へ
第26回	中華民国時代2―軍閥割拠
第27回	中華民国時代3―抵抗の時代
第28回	中華人民共和国時代1―共産主義革命と東西対立
第29回	中華人民共和国時代2―新たな東アジア世界の模索
第30回	総括とまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	40%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	学期中に各テーマの内容理解度を確認する複数回の小テストを、学期末には授業内容全体の理解度を確認する試験を課す。また、学期中に複数回のミニレポートを課す。
---------------	--

参考文献	尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史3 中国史』山川出版社、1998年 講談社『中国の歴史』シリーズ（全12巻）、2004年～2005年 木村靖二ほか著『詳説世界史』山川出版社、2017年改訂
事前および事後学習の指示	授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。
学習時間	事前学習時間：60時間　事後学習時間：60時間

講義コード	1530010000
講義名称	社会学原論　＜秋集＞
科目英文名	Principles of Sociology
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC1320
単位数	4.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限, 秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
名部　圭一

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート 小レポート/小テスト
---------------	---

講義・演習概要	19世紀末から20世紀までの社会学理論の展開を、ほぼ時系列に沿いながら見ていく。 その際。①それぞれの理論家はどのような点に「社会的なもの（the social）」も見出したのか、②そのアイデアは近代社会（modern society）の分析においてどう生かされているのか、という2つの観点から解説を行う。
学習（到達）目標	社会学理論の歴史を体系的に理解するとともに、学んだ理論を用いて社会問題・社会現象を説明できるようになること。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	イントロダクション：二つの社会イメージ
第3回	エミール・デュルケム（1）：物としての社会
第4回	エミール・デュルケム（2）：近代化と人格崇拜
第5回	マックス・ウェーバー（1）：意味としての社会
第6回	マックス・ウェーバー（2）：近代と合理化
第7回	ゲオルク・ジンメル：相互作用としての社会
第8回	タルコット・パーソンズ：秩序問題とダブル・コンティンジェンシー
第9回	ロバート・キング・マートン：中範囲の理論と機能主義の展開
第10回	アーヴィング・ゴフマン（1）：ドラマとしての社会
第11回	アーヴィング・ゴフマン（2）：人格崇拜と相互行為儀礼
第12回	現象学的社会学とエスノメソドロジー：意味世界の探究
第13回	フェルディナン・ド・ソシュールとジャン・ボードリヤール：記号論と消費社会
第14回	ミシェル・フーコー（1）：権力論の革新
第15回	ミシェル・フーコー（2）：規律社会・規律権力のあとに何がくるのか？
第16回	ピエール・ブルデュー（1）：ハビトゥス・文化資本・社会階級
第17回	ピエール・ブルデュー（2）：界と卓越化
第18回	アンソニー・ギデنز（1）：構造化理論
第19回	アンソニー・ギデنز（2）：モダニティ論

第20回	ユルゲン・ハーバーマス：公共圏とコミュニケーション的理性
第21回	ニクラス・ルーマン（１）：社会システムと反人間主義の社会学
第22回	ニクラス・ルーマン（２）：機能分化と近代社会
第23回	ジョック・ヤング：包摂型社会と排除型社会
第24回	ジグムント・バウマン：ソリッド・モダニティからリキッド・モダニティへ
第25回	ウルリッヒ・ベック：リスク社会論
第26回	見田宗介：まなざしの地獄と交響圏
第27回	ジュディス・バトラー：ジェンダー・トラブル
第28回	上野千鶴子：資本制と家父長制
第29回	レポート概要
第30回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	70%
その他	30%

	期末レポート：70％　課題レポート：30％　※レポートはいずれもM-Portで提出
成績評価の方法（コメント）	・課題レポートにはテーマに即した自身の考えを書いてもらう。なお、課題レポートの点数は出席点ではない。提出されたレポートが無内容もしくは不適切と判断した場合、得点を与えないので、しっかりと考え内容のあるレポートを出すこと（無内容なものを提出するぐらいなら、出さない方がまし）。 ・期末レポートは大きめのテーマを与え、1500～2000字で書いてもらう。成績評価は厳しめ。いわゆる「楽単」や「カモ」ではないので、覚悟して履修するように。

参考文献	友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留（編著）『社会学の力』有斐閣 奥村隆『社会学の歴史Ⅰ』有斐閣 奥村隆『社会学の歴史Ⅱ』有斐閣 竹内洋『社会学の名著30』筑摩書房（ちくま新書） 大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一（編）『社会文化理論ガイドブック』ナカニシヤ出版 作田啓一・井上俊（編）『命題コレクション社会学』筑摩書房（ちくま学芸文庫）
事前および事後学習の指示	・社会学の魅力のひとつは「自分の頭で考えることができる」という点にあります。この授業では、できるだけ多くの身近な例を出しながら解説をおこなうので、「自分もいっしょになって考える」という姿勢で参加してください。 ・一方通行にはならないインタラクティブな授業を目指します。学生からの積極的な発言・レスポンスを期待しています。
学習時間	事前学習時間：60時間　事後学習時間：60時間
キーワード	社会学理論／方法論的集合主義／方法論的个人主義／機能主義／意味学派／構造主義／伝統社会／近代社会／ポストモダン／後期近代／

講義コード	1781030000
講義名称	日本語文法論　＜秋集＞
科目英文名	Japanese Syntax
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	LING2450
単位数	4.0
時間割	秋学期: 月曜日 4 時限, 秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
有川　康二

授業形態	講義	実技	アクティブラーニング
	実務経験のある教員による授業① 日本語教師としての実務経験あり		

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	宿題(演習問題、e-learning等)	体験学習(実習、実験)	課題解決
	その他 文構造を書く練習		

講義・演習概要	消化の法則とメカニズムを理解するために胃腸という臓器（食物（情報）を分解、吸収する消化システム: gut brain （脳2、頭蓋骨の中の脳1よりも神経細胞の数が多い））を調べます。免疫の法則とメカニズムを理解するために血液やリンパ系細胞等の免疫システム（情報を守る器官）を調べます。この授業では、ヒト自然言語の情報処理の法則とメカニズムを理解するためにヒト脳という臓器（情報を処理するシステム、脳1）を調べます。といっても、脳を解剖したり（簡単にどこでもできません）、1台何億円もするfMRIを使って脳を調べるわけではありません。実際、解剖やfMRIでは言語システムで働く文法の本質的な法則や仕組みは全然分かりません。各々が自分の母語（韓国語、中国語、日本語など）を使って、つまり、各々が自分の脳の働きを徹底的に観察して、実験（思考実験）を行い、言語現象の論理的な説明をしていきます。母なる自然の創造した脳1（約1300gのタンパク質の塊）という情報処理システムで働く法則とメカニズムの説明を行います。紙と鉛筆があればできます。授業をちゃんと聞かない人、勉強する気がない人には全て無駄話に聞こえます（危険）。向学心豊かな真の大学生になりたい人だけ受講してください（願）。
学習（到達）目標	人間の脳1の言語システムは、母なる自然が創った複雑な情報処理システムです。言語システムの意味と構造の情報処理の法則とメカニズムを調べます。頭の中ではどんな言語情報の計算が行われているのか？母なる自然の創造したヒト脳の自然言語情報処理システムの法則とメカニズムを炙り出していきます。ヒトという動物の脳1が生み出す幾何学的なグラフ構造と一緒に書いてみます。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロ。 履修要項、シラバス、M-Portの関連箇所を読む。 ヒト脳の自然言語システムの法則とメカニズムを調べるには、どうしたらいいのか。ヒト脳の文に対する容認性反応（OKか、変か、どの程度、変か）を調べることは、私たち一人一人が自分の脳を使って行う実験。
第2回	第1回の続き
第3回	「統御」（構造的距離を計測する物差し）の定義、「学生が大学を破壊した」という文の構造のでき方のプロセス等
第4回	第3回の続き
第5回	「学生が大学を破壊した」という能動文に対応する直接受身文は「大学が学生によって破壊された」、間接受身文は、「国は学生に大学を破壊された」。直接受身の構造を調べる。また、今、ホモ・サピエンス脳内の言語システムが免疫システムを偽装している、という仮説の検証を行っているが、今回は、癌のような構造情報が存在するという話。癌細胞とは、自分は抗体のようなふりをして、私たちの体の免疫システムを攪乱する、抗体の働きを殺す情報（現代の医学では、この癌細胞を根絶することはできていない）。癌とは、自己になりすました他人。私達の脳内の言語システムは、癌細胞の働きも偽装している。私たちの脳の働きを観察すると、言語システムで、このような抗体（ウイルスバスター）の働きを消去する癌のような情報が存在する、という話。
第6回	第5回の続き
第7回	英語の受身文構造、他動詞を見分ける診断法
第8回	第7回の続き

第9回	ヒンディー語の直接受身の文構造、何故、ヒンディー語なのか？英語のresembleのような動詞が直接受身を形成できないのは何故か？
第10回	第 9 回の続き
第11回	間接受身の文構造、対応する英語の文構造（get-passive）
第12回	第 1 1 回の続き
第13回	主語の問題。小学校で習った「主語」の定義「格助詞『が』がついた動作主の名詞句」が間違いであることを証明する。「主語」の問題は超難問であることを解説する。
第14回	第 1 3 回の続き
第15回	ヒンディー語とイタリア語の方言、フリウリ語の一致現象。様々な「主語」の定義が混乱し、矛盾に満ちていることを解説する。
第16回	第 1 5 回の続き
第17回	より効果的な主語の定義と、その具体例。「主語＝照応形（『自分自身』）を最短距離で束縛する名詞句」という定義の有効性を確認する。発音されない（耳には聞こえない）名詞句が主語となる、主語は聞こえない、という驚愕の事実が明らかになる。
第18回	第 1 7 回の続き
第19回	より明確なかたちで、定理と証明を明示する。直接受身文と可能文を利用して、ヒト脳の生み出す幾何学的構造の存在証明を行う。可能文の例では、「～が」が主語ではない、「～に」が主語となる、発音されない（あなたの耳には聞こえない）「～に」が主語である、という衝撃的な結論を導く証明を行う。
第20回	第 1 9 回の続き
第21回	間接受身と使役の幾何学的グラフ（文構造）が基本的に同じという証明
第22回	第 2 1 回の続き
第23回	別の主語の定義。規則的な尊敬と謙譲の表現パターンを利用する。30歳で夭逝した天才の生成文法学者、原田信一（1947-1978）が東京大学、言語学科に提出した卒業論文で提案した仮説を、現時点の生物言語学の枠組みで再評価する。その定理の提示と証明。
第24回	第 2 3 回の続き
第25回	変項束縛の問題を、疑問文を使用して考える。疑問文を数式（論理式）として扱うと、演算子の変数を束縛するという数式の基本的な性質が観察されることを解説する。
第26回	第 2 5 回の続き
第27回	whetherを使用した、principle of minimal computation (MC; 最小計算の法則)に関する定理の更なる証明。数学のグラフ理論が自然言語研究にどのように貢献できるのかに関する具体例。
第28回	第 2 7 回の続き
第29回	グラフ理論（線形代数学の応用）は自然言語研究に貢献できるか？
第30回	第 2 9 回の続き

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	講義中に自筆でノートをとってください。毎回提出の自筆授業ノートの質、量、提出具合で評価。毎回毎回のノート取りが毎回毎回の教室内試験です。自筆でのノート取りは基本の基。基本の基で評価します。ここでは剽窃援助AIシステムChatGPTも無能です。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	Koji Arikawa	Elements of generative syntax: How rationality tackles the language system		978-981-95-6317-3	Springer Singapore	chap. 5を重点的に扱う。購入不要。

参考文献	寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版 宮本陽一(2009)『生成文法の展開―「移動現象」を通して』大阪大学出版会 Arikawa, Koji (2019) Graph theory teaches us something about grammaticality. The Prague Bulletin of Mathematical Linguistics (PBML), 112, 55-82.
事前および事後学習の指示	内容を順次理解しなければ、珍糞漢糞になります。
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間
キーワード	自然言語、自然法則、情報、構造

講義コード	1051510002
講義名称	外国史 02<秋集>
科目英文名	History of Foreign Countries
開講責任部署	共通教育機構（資格課程）
代表ナンバリングコード	HIST1020
単位数	4.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限, 秋学期: 金曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
梅田 百合香

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	本講義では、教職を目指し、中学・高校で歴史教育に従事することを想定している学生を前提に、世界史とりわけ西洋史について、現在の研究水準を踏まえたうえで近世から現代までの通史を解説するとともに、デジタル資料などを用いながら臨場感ある授業を進めていく。
学習（到達）目標	受講者は、教育目標を達成するための西洋史の基礎的学力を身につけることを目標とする。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	講義ガイダンス
第2回	宗教改革Ⅰールターとドイツ宗教改革
第3回	宗教改革Ⅱースイスの宗教改革とカルヴァン主義の展開
第4回	ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成
第5回	重商主義と啓蒙専制主義Ⅰーイギリス革命と絶対王政
第6回	第 1 回試験およびまとめ
第7回	重商主義と啓蒙専制主義Ⅱープロイセン、オーストリア、ロシア
第8回	重商主義と啓蒙専制主義Ⅲーヨーロッパ諸国の海外進出
第9回	アメリカ独立革命
第10回	フランス革命とナポレオンⅠー革命の勃発
第11回	フランス革命とナポレオンⅡーナポレオンの帝国
第12回	第 2 回試験およびまとめ
第13回	ウィーン体制の成立Ⅰーウィーン会議
第14回	ウィーン体制の成立Ⅱー 1 8 4 8 年革命
第15回	ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生Ⅰーロシア、イギリス、フランス
第16回	ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生Ⅱーイタリア、ドイツ、非列強国家
第17回	第 3 回試験およびまとめ
第18回	南北アメリカの発展Ⅰーラテンアメリカ
第19回	南北アメリカの発展Ⅱー南北戦争
第20回	帝国主義と列強の展開Ⅰーイギリス、フランス、ドイツ

第21回	帝国主義と列強の展開Ⅱーロシア、オーストリア、イタリア
第22回	世界分割と列強対立
第23回	第 4 回試験およびまとめ
第24回	第一次世界大戦とロシア革命Ⅰー第一次世界大戦の勃発
第25回	第一次世界大戦とロシア革命Ⅱーロシア革命
第26回	ヴェルサイユ体制下の欧米諸国Ⅰーヴェルサイユ条約とワシントン体制
第27回	ヴェルサイユ体制下の欧米諸国Ⅱー第一次世界大戦の各国への影響
第28回	世界恐慌とファシズム諸国の侵略Ⅰー世界恐慌
第29回	世界恐慌とファシズム諸国の侵略Ⅱーナチス=ドイツの成立
第30回	第 5 回試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	5 回の確認テストにおいて、学習目標に対応するテーマに関する選択式問題を出題する。 この 5 回のテストで、授業内容を踏まえた西洋史の基礎的学力が身についているかどうかを評価する。 6 回以上欠席した場合（公認欠席は含まない）、成績評価対象外となるので注意すること。
---------------	--

テキスト

	著 者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	木村靖二・岸本美緒・小松久男編	詳説世界史研究	大学オンライン販売	4634030888	山川出版社	

事前および事後学習の指示	講義中はノートを取り、授業後テキストと自分のノートを読み返し復習すること。 復習後、自分のノートをもう一度まとめ直し、次回の講義内容に備え予習すること。
学習時間	事前学習時間：60時間　事後学習時間：60時間

講義コード	17A7350002
講義名称	学科特殊講義-宮崎アニメの世界Ⅰ 02<秋集> ※英語による講義
科目英文名	Lecture on Special Topic-Miyazaki Hayao's World of Anime
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT3440
単位数	4.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限, 秋学期: 水曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
取屋 淳子

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	“Anime” (Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years, and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works. This course will look at a number of Miyazaki’s movies, including “My Neighbor Totoro” “Princess Mononoke,” and “Spirited Away,” from various angles. In addition to Miyazaki’s works, other Japanese animated movies will also be taken up. The history of Japanese animation will also be surveyed, and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company which are the most widely known.
学習（到達）目標	By focusing on a specific theme and work each time, the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime. The course will not only examine the contents of the various works, but will also take up such topics as the historical background to the movies, the critical evaluation they received and the reaction of audiences worldwide. Movies examined will include: ○ Miyazaki’s Works: “Nausica of the Valley of the Wind,” “My Neighbor Totoro,” “Princess Mononoke”,“Spirited Away,” etc… ○ Other Anime Productions: “Haku-ja den,” “Akira,” “GHOST IN THE SHELL” etc.

講義・演習計画

回	内容
第1回	Introduction of the lectures
第2回	Introduction of the lectures
第3回	Starting point of Miyazaki Hayao①
第4回	Starting point of Miyazaki Hayao①
第5回	Starting point of Miyazaki Hayao②
第6回	Starting point of Miyazaki Hayao②
第7回	History of Japanese Anime①
第8回	History of Japanese Anime①
第9回	History of Japanese Anime②
第10回	History of Japanese Anime②
第11回	History of Japanese Anime③
第12回	History of Japanese Anime③
第13回	Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①
第14回	Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①
第15回	Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②
第16回	Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②

第17回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime①
第18回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime①
第19回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime②
第20回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime②
第21回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime③
第22回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime③
第23回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime④
第24回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime④
第25回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑤
第26回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑤
第27回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑥
第28回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑥
第29回	Review
第30回	Review

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	Reaction paper and Final assignment(in English).
---------------	--

参考文献	Hayao Miyazaki：Starting Point 1979～1996 （2014）
事前および事後学習の指示	詳細は講義中に指示するが、キーワードなど、自分なりの理解が深まるよう努力すること。
学習時間	事前学習時間：60時間　事後学習時間：60時間
備考(管理者用)	（旧：共通自由特別講義－宮崎アニメの世界Ⅰ）04～08生読替（L・文学部除く）☆英語による講義

＜社会人の方へ＞英語での講義ですが、英語を学ぶのではなく、アニメ作品における日本文化等を、英語で見えていく内容になります。映像の視聴（日本語音声・英語字幕）の機会が多いです。

講義コード	14D0310002
講義名称	経済原論 02<秋集> ※遠隔授業（オンデマンド型）
科目英文名	Principles of Political Economy
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2330
単位数	4.0
時間割	秋学期: 土曜日 4 時限, 秋学期: 土曜日 5 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
李 晨

授業形態	講義	アクティブラーニング	その他
			新聞、動画等のメディアの活用

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	世界的な経済・金融危機が長期化するに伴い、資本主義によって生じる問題が、現代社会で改めて認識されつつある。その一例として『世界規模での格差の拡大』、『ブラック労働』『長時間労働』『なぜ賃金が上がらないのか』という問題などが挙げられる。経済だけでなく人々の意識さえも将来に希望を抱くことが困難な状況に陥っている。それらの課題を解決するには、まず資本とは何か、資本主義とは何か、資本主義に伴う危機とは何か等を包括的に考え、資本主義の運動法則を解明するマルクス経済学を理解しなければならない。 本講義は、マルクス経済学の基礎概念と分析手法を理解し、その分析方法を用いて、現実社会をより正確に読み取る力を培うことを目的とする。これらを通じて、現在の資本主義社会における各課題の背景となる資本主義社会の本質、資本主義社会の根本的な矛盾をはっきり見分けられようになることに主眼を置く。 具体的には、前半の部分にマルクス経済学における基本概念を説明する。中間部分はマルクス経済学の基本分析方法を理解する。それらを通じて受講者は、資本主義の本質・資本主義社会の根本的な矛盾を正確に把握することができるはずである。講義の後半では、マルクス経済学の方法を用いて現実社会を実際に分析する。世界的に拡大する格差、AIと資本主義、資本主義をベースとする日本経済、さらにマルクス経済学を基礎とした社会主義国家である中国の発展経路を考察する。それにより、資本主義社会と社会主義社会の根本的な違いを理解する。
学習（到達）目標	・マルクス経済学の基本概念について、古典派経済学と近代経済学との違いを踏まえて、説明することができるようになる。 ・資本主義社会の本質、基本矛盾、それと社会主義の違いなどについて、説明することができるようになる。 ・マルクス経済学の研究対象、分析方法を説明することができるようになる ・マルクス経済学の方法論を用いて、現代資本主義社会における諸問題を解決するにあたってのセカンド・オピニオンを持ち、自身の意見を展開することができるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	なぜ今マルクス経済学か？マルクス経済学の研究対象とは？
第2回	経済学の発展系譜 ①古典派経済学
第3回	経済学の発展系譜 ②古典派経済学からマルクス経済学へ（比較）
第4回	経済学の発展系譜 ③マルクス経済学
第5回	経済学の発展系譜 ④マルクス経済学から近代経済学へ（比較）
第6回	経済学の発展系譜 ⑤近代経済学
第7回	経済学の発展系譜 まとめ
第8回	マルクス経済学基礎概念 ①商品とは何か
第9回	マルクス経済学基礎概念 ②貨幣とは何か
第10回	マルクス経済学基礎概念 ③資本とは何か
第11回	マルクス経済学基礎概念 ④剰余価値とは何か？
第12回	資本主義経済の一般的運動法則――資本蓄積過程
第13回	資本の流通過程：資本の諸変態とそれらの循環

第14回	資本の流通過程：社会的資本の再生産①単純再生産
第15回	資本の流通過程：社会的資本の再生産②拡大再生産
第16回	資本と剰余価値の現れ方（資本主義社会の国民所得と階級構造）
第17回	資本主義経済における搾取と蓄積のあり方の変遷
第18回	独占資本主義の形成と発展
第19回	グローバル資本主義と景気循環論
第20回	戦後資本主義世界の危機の構造
第21回	マルクス経済学の方法と現代社会
第22回	マルクス経済学の方法で社会を見る：世界的格差拡大を如何に読み取るか？① （データからみる社会の多様な格差）
第23回	マルクス経済学の方法で社会を見る：世界的格差拡大を如何に読み取るか？② （関連ビデオの視聴）
第24回	マルクス経済学の方法で社会を見る：AIと資本主義社会① （AIと資本主義社会の発展）
第25回	マルクス経済学の方法で社会を見る：AIと資本主義社会② （関連ビデオの視聴）
第26回	マルクス経済学の方法で社会を見る：日本におけるマルクス経済学の発展とその背景
第27回	マルクス経済学の方法で社会を見る：1990年代以後の日本経済における構造的危機 （経済成長、社会問題）
第28回	マルクス経済学の方法で社会を見る：中国におけるマルクス経済学の発展とその背景
第29回	マルクス経済学の方法で社会を見る：中国経済成長におけるマルクス経済学 （経済成長、社会問題）
第30回	今後のマルクス経済学

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	備考 課題（100%）
---------------	----------------

参考文献	伊藤誠(2016)『マルクス経済学の方法と現代社会』桜井書店 大西広(2015)『マルクス経済学』慶應義塾大学出版社 カールマルクス(著)、エンゲルス（編）向坂逸郎（翻訳）（1969）『資本論』 岩波書店 延近充(2015) 『21世紀マルクス経済学』慶應義塾大学出版社 松尾匡(2010) 『マルクス経済学 図解雑学シリーズ』ナツメ社 ヨハン・モスト原著；カールマルクス 加筆・改訂；大谷禎之介訳(2009)『マルクス自身の手による資本論入門』
事前および事後学習の指示	授業時間以外の予習としては、授業で取り上げる内容への理解力を高めるため、事前に配布した資料を読んでおくこと。さらに、授業計画にそって事前に配る主要専門用語の課題学習を提出すること。それらを通じて、講義へ意識を向けられるようになること。授業時間内においては、授業の最初の10分間で前回講義の内容を復習すること。また、授業終了前の15分、講義の内容の理解度を確認するため、レポートや小テストを実施し、その成果を再確認する。最後に、授業終了後は、講義の内容を復習し、次の講義に備えること。
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間
備考（管理者用）	（旧：経済原論ⅠB）02～07E・CBCC生読替☆遠隔授業（オンデマンド型）